



# 学校だより



12月号

令和5年11月30日

横浜市立善部小学校

校長 朝川 健太郎

## 全校遠足を経験して得られたもの

校長 朝川 健太郎

11月20日月曜日、秋晴れの中「全校遠足」が行われました。6年生のリーダーシップの下、スマイル班（異学年グループ）ごとにこども自然公園に行き、楽しく遊んだり一緒にお弁当を食べたりしました。道路を歩く時は高学年の児童が低学年の児童の様子を常に気にしながら歩き、帰りには6年生が1年生の荷物をもってあげる姿も多く見られました。遊んでいるときも班のメンバーの様子を気かけ、手を引いたり声をかけたりしていました。6年生はZSFの練習中から準備を行い、最高学年としての責任を見事に果たしました。5年生は6年生の様子をしっかり目に焼き付け、来年度に向けての自覚が芽生えてきているように感じました。低学年の児童も、普段の学校生活の中では見せないような表情が見られ、充実した1日を過ごしたようです。ご協力いただきました学校協働運営協議会の委員の皆様、PTA本部役員の皆様、本当にありがとうございました。また、延期のため2度にわたってお弁当作りをしていただいた保護者の皆様にも感謝申し上げます。ZSFから全校遠足を経て、子どもたちは大きく成長したのではないのでしょうか。



さて先日、令和5年度横浜市学力・学習状況調査の結果が配付されました。この調査では、学習内容の理解度や学力の伸びを調べる「学力調査」とともに「生活・学習意識調査」も行われています。生活・学習意識調査は「学習に進んで取り組んでいますか」「自分の考えを相手にわかるように伝えていきますか」といった学習に対する意識と「朝ご飯を毎日食べていますか」「地域の行事に参加していますか」といった生活に関する意識を調査しています。また、「自分のことは好きですか」「自分にはよいところがあると思いますか」といった自分に関する質問もあります。

令和5年度の生活・学習意識調査を詳しく見てみると、6年生の結果の中で特に高い意識を示していたのが「人のためになることをしたいと思いますか」の項目でした。しかも、経年変化で見ると2年前の4年生の時から5年生、6年生と学年が上がるにしたがって意識が向上していることが分かりました。これもスマイル班の活動の効果ではないかと考えています。ZSFや全校遠足を通して「誰かの役に立っている」「誰かから必要とされている」といった自己有用感を実感し、人の役に立ちたいという意識が大きくなっているのではないのでしょうか。

『社会性』は、人と関わる体験によって育まれていきます。今後も、社会性を育むために「人と関わることは楽しい」「人の役に立ててうれしい」と思えるような活動を進めていきたいと思っています。